

新規品質保持剤利用による切り花バケット流通システムの確立

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構花き研究所 市村 一雄

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

花持ちのよい切り花を流通させることが求められている。そこで、前処理用およびバケット輸送用品質保持剤を開発し、各地からの出荷・流通に適した高鮮度流通システムの確立を図る。

4 研究内容及び実施体制

- ① 前処理用品質保持剤の開発 ((独) 花き研究所、クミアイ化学工業(株))
切り花の品質保持に有効な品質保持剤を開発する。
- ② バケット輸送用品質保持剤の開発 ((独) 花き研究所、クミアイ化学工業(株))
バラ等主要切り花に有効なバケット輸送用品質保持剤を開発する。
- ③ 遠隔寒冷地に適したバケット流通システムの確立 (北海道立花野菜技術センター、(独) 花き研究所)
遠隔寒冷地に適したバケット流通システムを確立する。
- ④ 遠隔暖地のバケット流通システムの確立 (和歌山県暖地園芸センター、(独) 花き研究所)
遠隔暖地に適したバケット流通システムを確立する。
- ⑤ 近郊暖地のバケット流通システムの確立 (千葉県暖地園芸研究所、(独) 花き研究所)
近郊暖地に適したバケット流通システムを確立する。

5 目標とする成果

遠隔寒冷地、遠隔暖地および近郊産地において、新規品質保持剤を用いた切り花の出荷・流通に適した高鮮度流通システムが確立される。これにより、各地から出荷される切り花の花持ちが向上することが可能となり、ホームユース用切り花の消費拡大に繋がることが期待される。